

平成 28 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類 教授

申 請 者 名 井 実 充 史

| | |
|------------------------|--|
| 助成事業の区分 (該当するものに○印) | 研究協力に関する事業 (学会等運営) |
| 事 業 名 | 平成 28 年度上代文学会大会 |
| 事業実施期間 | 平成 28 年 5 月 14 日 ～ 平成 28 年 5 月 15 日 |
| 成 果 の 概 要 | <p>平成 28 年度上代文学会大会を 5 月 14 日、15 日の二日間において開催した。</p> <p>初日はコラッセふくしまの多目的ホールに 2 名の講師を招いて公開講演会を行った。一人目の東北学院大学教授・熊谷公男氏には「古代蝦夷の居住範囲と文化」という題目で講演していただき、西日本の文化を研究の中心とする上代文学研究者に、古代東北の歴史・文化に関する理解を深めてもらう機会を提供することができた。二人目の三重大学名誉教授・廣岡義隆氏には『出雲國風土記』の副本について」という題目で講演していただき、東北においてやや馴染みの薄い上代文学に関する普及を図ることができた。なお、初日は約 110 名が参加した。</p> <p>二日目は福島大学 L-1 教室に場所を移して、6 名による研究発表会を行った。発表者及び題目を以下に列挙する。高橋憲子氏「英訳を通して見る『古事記』文体の特徴」、渡邊卓氏「加茂真淵『日本紀訓考』の価値—『古事記伝』の影響を考える—」、大石真由香氏「陽明文庫所蔵「古活字本万葉集」の紫による書入訓について」、鈴木崇大氏「語り継ぎ言ひ継ぎいかむ不尽の高嶺は」—山部赤人の不尽山歌—」、月岡道晴氏「「不知代経浪」—人麻呂宇治河邊作歌の表記について」、品田悦一字治「神ながら栄えゆくべき世界」。いずれも高いレベルにおける研究発表であり、活発な質疑応答が行われ、学術的に大変有意義な研究会となった。地方都市の福島市にあって、このようなレベルの高い研究発表会を実現し得たのは、ひとえに各地の上代日本文学研究者が一堂に会して行われる大会を開催したからである。なお、二日目は約 120 名が参加した。</p> |